

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：大学費 目：情報科学芸術大学院大学費

事業名 大学機能活用推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 情報科学芸術大学院大学 電話番号: 0584-75-6600

E-mail : c21905@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 10,000 千円 (前年度予算額: 10,000 千円)

〈財源内訳〉

区分	事業費	財源内訳							
		国庫支出金	分担金負担金	使用料手数料	財産収入	寄附金	その他	県債	一般財源
前年度	10,000	10,000	0	0	0	0	0	0	0
要求額	10,000	10,000	0	0	0	0	0	0	0
決定額	10,000	10,000	0	0	0	0	0	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

厳しい県の財政状況を踏まえ、教育研究関係経費が削減されるなか、国の各種補助金をはじめとする外部資金を活用した事業を推進する。

しかしながら、国庫補助事業の多くが、年度末から年度当初にかけて募集があり、採択結果が判明するのが5～7月頃のため、採択から9月補正予算成立までの間において、事業が円滑に推進できない。

（2）事業内容

国庫補助事業等外部資金の有効活用により、メディア芸術作品の保存および利活用や、メディア芸術分野における産学館（官）連携・協力による新領域創出や調査研究を実施することで、より高度な水準の調査研究等、外部向け情報発信機能を充実させる。

これらのことから、これらの事業に取り組むことで、それに関わる人材育成も図り、実践ノウハウを踏まえたTAMASの教育カリキュラムの拡充を図る。

→採択が未確定な国庫補助事業を一括管理し、円滑な事業推進を図る

＜採択結果を踏まえた予算整理は9月補正で対応＞

(3) 県負担・補助率の考え方

国庫補助・委託金 (10/10)

（4）類似事業の有無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	5,000	アーティスト招へい、研修会講師等
旅費	500	業務旅費（山口市、仙台市、東京都等想定）
消耗品費	300	イベント等消耗品
印刷製本費	200	チラシ等資料作成
役務費	450	資材等運搬費 等
保険料	50	来場者保険料
委託料	3,000	イベント会場設営業務委託、映像制作・デザイン等委託 等
その他	500	会場使用料 等
合計	10,000	

決定額の考え方

4 参考事項

（1）後年度の財政負担

来年度以降も国庫補助事業等外部資金を活用し、大学が持つ教育研究成果に基づく機能を積極的に活用した事業に取り組んでいく。

（2）事業主体及びその妥当性

事業主体：情報科学芸術大学院大学

本校では、最新の科学技術や文化を吸收しながら、先端的な芸術表現や、新しいコミュニティやものづくりのあり方などを社会に提案し、実践的な研究を通じて「高度な表現者」の育成を目指している。当事業では、この理念にあった先端的な、より高度な水準の調査研究等を実施し、外部と連携・協力することによる人材育成も図ることができる。

事 業 評 価 調 書 (県単独補助金除く)

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

国庫補助事業等を活用して、I AMAS の有する先端的な芸術表現や新しいものづくりなどの機能を県内外に広く PR することで、地域産業や地域社会と連携した取り組みの拡大につなげる。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率

○指標を設定することができない場合の理由

外部資金の積極的な活用を推進するものとするが、国庫補助メニューと本学の教育研究目的の整合等により多様なパターンが想定されるため、具体的な数値目標を設定することが適当でない。

(これまでの取組内容と成果)

令和 5 年 度	国庫補助事業等外部資金を有効に活用することによって、先端的な、より高度な水準の調査研究等を実施し、外部と連携・協力することによる人材育成を図る。 (採択はなかった)
令和 6 年 度	国庫補助事業等外部資金を有効に活用することによって、先端的な、より高度な水準の調査研究等を実施し、外部と連携・協力することによる人材育成を図る。 (採択はなかった)
令和 7 年 度	令和9年度当初予算にて追加

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 2	国際的に日本のメディアアートが高く評価され、国際的なイベントから産業界まで活用機会の増大が見込まれるなか、こうしたテーマのアートイベントや人材育成の積極的実施が必要である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	大学の教育研究やその成果の外部発表を効果的に実施していくためには、外部資金を積極的に活用していくことが有効である。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	外部資金の活用により、県費の削減を図ることができる。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

外部資金の募集時期、メニューが一定しておらず、年度ごとに対応を変えていく必要があるが、積極的な活用のため、様々なケースに対応していく。

(次年度の方向性)

- ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
- ・今後も国庫補助事業等を有効活用して、様々な取り組みを推進する。
- ・イベントや人材育成事業の開催を通じて、本学の教育研究の質を向上させ、地域産業や地域社会に向けた貢献に取り組んでいく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	